

“The promise for our future”

未来への約束

～京都与謝野のひとづくり、しごとづくり、まちづくり～



平成27年12月

与謝野町

CONTENTS



01 目次

02 どのように対応するのかが問われている

03-04 基本的な考え方

戦略の実施期間

4つの基本目標

効果の検証

05-08 基本目標1 織りなす人をつくる

(ア) 地域で育む地域人財の育成

(イ) 創造人財の育成

(ウ) 妊娠から出産・子育てまでを一体的に支援する環境づくり

09-11 基本目標2 創造的にものをつくる、しごとをつくる

(ア) 与謝野ブランド戦略による地域産業のイノベーション

(イ) コト起こしへのチャレンジの喚起

(ウ) 都市部からの企業サテライトオフィス×移住誘致

12-13 基本目標3 まちへの人の流れをつくる

(ア) IJU支援の強化と創造的交流の推進

(イ) 大学、都市等との連携・交流

14-15 基本目標4 地域と地域が連携し持続可能なまちをつくる

(ア) 地域住民による地域づくりの推進

(イ) 京都府北部広域連携事業の推進、自治体間交流

人口減少

どのように対応するのかが問われている

京都与謝野人口ビジョンに示すとおり、本町の人口は23,454人、高齢化率29.93%（いずれも2010年国勢調査）となっており、今後、人口減少が進み高齢化率もますます上昇することが明らかとなっています。ピーク時の1975年には28,618人の人口がありましたが、なぜ人口が減少したのでしょうか。なぜ今後も減少していく予想となっているのでしょうか。

本町の人口減少の原因は二つあります。一つは出生数より死亡数が多いこと（自然減）。もう一つは転入数より転出数が多いこと（社会減）です。この二つの原因により、近年は毎年約300人の人口が減少する傾向となっているのが実態であり、また、人口構造が若年層が少なく年齢の大きい世代に偏っていることから、仮に出生率が上昇し子どもの人数が増えても、それ以上に亡くられる方の人数が多いため、出生率が上昇した効果が現れるまではすぐに自然減を解消することは難しいと言えます。さらに若年層の転出傾向が続いているため、この流れを断ち切ることに加え、転入者数の増加が人口減少の抑制に効果的であると言えるものの、そう簡単ではないことはよく理解できるのではないのでしょうか。

今、東京圏以外の日本全国が本町と同様の状況となっており、日本全体の人口が今後、減少することが予測されている状況においては、本町だけが人口が増えるとは考えにくい状況となっています。

人口が減少することによって、社会の多くのことに影響が出てくるのが容易に予想できます。影響の範囲や程度は様々ですが、少なくともこれまでのような人口増加、右肩上がりの経済成長を前提としたまちづくりはもう限界であって、人口減少を前提としたまちづくりが求められているところです。要するに、人口を増やすことが目的ではなく、人口減少にどのように対応するのかが問われていると言えます。

このような人口減少下においても持続可能なまちをつくるため、本町では人口減少を出来る限り抑制し2060年以降に「16,000人」前後で人口が落ち着く「おおむね人口維持」を長期的目標として掲げます。さらに、ここに住む人の数のみを目標とするのではなく、縮小する社会においても人や地域が輝き「老若男女がイキイキする与謝野(まち)」であり続けることが重要となります。

町においては、平成19年に「第一次与謝野町総合計画」を策定し、“水・緑・空 笑顔かがやく ふれあいのまち”をまちの将来像に掲げ、平成20年度から平成29年度までのまちの基本構想及び基本計画（現在は平成25～29年度を対象とする後期基本計画期間）を定めたところです。

したがって、全体としてはこの基本構想及び基本計画に沿って町政を進めていきますが、昨今の人口急減・超高齢化の波、そして、政府レベルでも地方創生関連法案が策定され、「まち・ひと・しごと創生本部」が立ち上がったことを受け、本町でも人口減少問題の克服と成長力の確保のために「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、住民等で構成する「与謝野町まち・ひと・しごと創生有識者会議」からの提言も踏まえ、ここに「与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略」をまとめました。

■ 基本的な考え方

本町では、次の基本的な考え方によりこの総合戦略の取り組みを進めます。

- (1) 常識にとらわれず、チャレンジする姿勢を大事にします
- (2) 多様な価値観を尊重します
- (3) 民間の力を最大限発揮します

■ 4つの基本目標

今までのまちづくりは行政主導で行われてきましたが、成熟した社会においては、価値観や生き方等が多様化しており、行政の力だけでは十分なまちづくりを進めることは難しくなっています。このような状況を共有し40年先、50年先を見据えて、今から2019年までの間に住民、住民団体、行政が取り組むまちづくり施策をまとめたのが、この「与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」です。

本町では高校卒業後の若年層の転出超過が人口減少の最大の原因となっていますが、仕事・雇用を作れば人が帰って来るかと言えばそれがすべてではなく、この町でイキイキと働き・共に学び育ち、そしてワクワクするような活動が行われ、キラリと光る人の存在がある、そんな町には外からも人が来ると考えています。また、日本全体で人口が減少する状況で人の取り合い・金の取り合い、自治体同士の競争に如何に勝ち残るかに知恵を絞るのではなく、京都府北部、丹後といった地域連携や、お互いのまちに新しい価値を生み出すためのパートナーになれる離れた地域の自治体との連携によって、持続可能なまちを目指すという考えで総合戦略を構成しています。

よって、最も重要なものは「ひと」であり、次いで「しごと」が重要との共通認識のもと、従来の「まち・ひと・しごと」ではなく、「ひと・しごと・まち」という順番に並び替え、4つの基本目標を柱に総合戦略をまとめました。

また名称については「未来への約束 “The promise for our future” ～京都与謝野のひとづくり、しごとづくり、まちづくり～」としました。これはいわゆるこれまでの行政計画のような固い名称としないことで、一人でも多くの町民に分かりやすく伝え、「自分たちが主役である」と捉えてもらいたいという思いを込めています。また、この総合戦略は2040年以降を見据えたものとなっています。その意味では、現在の与謝野町、与謝野町民だけでなく、未来の与謝野町、与謝野町民への約束であるとも捉えられます。

■ 戦略の実施期間

平成27年度から平成31年度までの5年間

■ 効果の検証

4つの基本目標それぞれに実現すべき成果に係る指標を設定するとともに、具体的な施策についても効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標（KPI））を設定しました。これらの指標により総合戦略の進捗を毎年度、評価・検証し、必要に応じて総合戦略を見直すこととします。

したがって、この総合戦略は常に変化し続けることとなります。

4つの基本目標

織りなす人をつくる

1

～与謝野を愛し、多様性を認め合い、新しいモノやコトを創出する人財育成～

(ア) 地域で育む地域人財の育成

- ①与謝野みらい町民大学校（仮称）
- ②与謝野学教育
- ③公共施設の柔軟な利活用による場づくり

(イ) 創造人財の育成

- ①新たな知を生み出すリベラルアーツ教育の推進
- ②「ほんまもん技育」
- ③グローバル人財の育成
- ④多様な町政参画機会の提供

(ウ) 妊娠から出産・子育てまでを一体的に支援する環境づくり

- ①結婚から妊娠・出産支援
- ②保育サービスの充実
- ③心豊かな親と共に地域で子育てを応援する体制づくり

創造的にものをつくる、しごとをつくる

2

～与謝野ブランド戦略による一気通貫した産業振興～

(ア) ブランド戦略による

地域産業のイノベーション

- ①マネジメント体制の構築
- ②ものづくり産業の強化
- ③自然循環農業の強化
- ④大規模農業・地域内6次産業化・新規就農
- ⑤プロモーションの強化

(イ) コト起こしへのチャレンジの喚起

- ①創造地域づくりの推進
- ②創業等支援の充実

(ウ) 都市部からの

企業サテライトオフィス×移住誘致

- ①逆指名型企業誘致

まちへの人の流れをつくる

3

～ヒトの魅力でヒトが集う与謝野IJU（いじゅう）戦略～

(ア) IJU支援の強化と創造的交流の推進

- ①空き家・空き地の把握
- ②移住から仕事までの一気通貫の支援ネットワークの構築
- ③与謝野・イン・レジデンス（短期型滞在）【仮称】の推進

(イ) 大学、都市等との連携・交流

- ①大学（大学生）との連携事業
- ②「与謝野梁山泊（仮称）」事業
- ③ふるさと奨学金

地域と地域が連携し持続可能なまちをつくる

4

～与謝野を磨く、丹後を磨く～

(ア) 地域住民による地域づくりの推進

- ①地域ビジョン（仮称）の推進
- ②まちづくり観光の推進

(イ) 京都府北部広域連携事業の推進、自治体間交流

- ①京都府北部地域連携都市圏の形成
- ②公共交通の維持・強化
- ③創造都市交流事業の推進

基本目標 1

織りなす人をつくる

～与謝野を愛し、多様性を認め合い、新しいモノやコトを創出する人財育成～

※ 担い手については事業の後ろに【住民主導】【民間主導】【協働】【行政】【行政主導】を付記。

基本的方向

- 本町の歴史（過去）を知り、現在を見つめ、未来を創造できる、本町を愛してやまない与謝野人（織りなす人）を育成します。
- 自分たちの強みを知り、多様性を認め、それぞれの良さを融合させたり、独自で新しいモノづくりやコトづくりにチャレンジできたりする与謝野人（織りなす人）、大海（時代や社会、他地域）を知り、自分の立ち位置をしっかりと見定め、バランス感覚を持って幅広く活躍する与謝野人（織りなす人）を育成します。
- 老若男女、多様な考えを持った人たちがイキイキする場や機会をつくり、人と人、地域と地域、人と地域をつなぎます。
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるとともに、一人一人の子どもが健やかに成長し、明日の与謝野人（織りなす人）を育成します。

数値目標

与謝野みらい町民大学（仮称）学生数	0人（H26） ⇒ 100人（H31）
「創造人財の育成」事業への参加者数	0人（H26） ⇒ 650人（H31）
出生数	149人/年（H26） ⇒ 150人/年（H31）



具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（ア）地域で育む地域人財の育成

① 与謝野みらい町民大学校（仮称） 【協働→住民主導】

大学のないまちだからこそ、町民が講師/生徒となり、共に教え合う、学び合う場、多世代が交流できる場「与謝野みらい町民大学校（仮称）」をつくり、町民が主体となって企画・運営する仕組みを取り入れます。（結果的に若い男女が出会う機会も創出）

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・ 与謝野みらい町民大学（仮称）： ⇒ 開学

② 与謝野学教育 【協働】

未就学児（認定こども園・幼稚園・保育所（園））・小学校児童・中学校生徒・高校生に対して、地域総掛かりで郷土愛を育む「与謝野学」の出前教室、体験講座を実施します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・ 与謝野学講座の実施回数： 0回（H26） ⇒ 500回（H31）

③ 公共施設の柔軟な利活用による場づくり 【行政主導→協働】

町が所有する公民館・運動公園・図書館・体育施設などの公共施設の一部もしくは全部を活用し、民間・町民視点で共育できる場づくり、人が集まる場づくりを進めます。施設の一部については、コワーキングスペース[※]などでの利活用も検討します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・ 社会教育施設の利用者率（年間利用者総数÷人口）： 10.43（H26） ⇒ 11.00（H31）

[※] コワーキングスペース：事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイルを指す。一般的なオフィス環境とは異なり、コワーキングを行う人々は同一の団体には雇われていないことが多い。

(イ) 創造人財の育成

①新たな知を生み出すリベラルアーツ[※]教育の推進 【協働】

現在のリベラルアーツ事業をより充実させ、本町を含む京都府北部全体、歴史的つながりの深い旧豊岡県（但馬・丹後・丹波）や若狭地域も含めた北近畿の歴史、文化からまちづくりのためのアートやデザインに至るまでの教養全般を学ぶ機会や拠点をつくります。

さらに、町民がリベラルアーツで学んだ成果を町政に活かす機会を支援します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・特別教養講座の受講者登録数： 0人（H26） ⇒ 100人（H31）

②「ほんまもん技術」 【協働】

本町在住の親子や地元高校生、町外の高校生などを対象に、与謝野人（織りなす人）が講師となり、「丹後ちりめん」や織物業の染色体験など「ほんまもん」に触れる機会（体験・インターンシップ[※]など）をつくります。また、同じく本町の「農業」に触れる機会（収穫体験・農業者（法人・個人）によるインターンシップの受け入れなど）もつくります。

なお、将来的には丹後地域全体での修学旅行誘致にもつなげていくことで広域連携のコンテンツとすることを目指します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・「ほんまもん技術」受講者数： 0人（H26） ⇒ 500人（H31）



③グローバル人財の育成 【協働】

英国ウェールズのアベリスツイス（Aberystwyth）[※]と高校生・大学生（本町出身者を含む）との相互人財交流やアベリスツイス大学留学等により、多様性を認め国際感覚を磨きグローバルな視点で地域経済・社会（ローカル）づくりを担うグローバル人財を育成します。

また、外国語指導助手及び国際交流団体等により外国語の学習や外国文化に対する理解を深める取り組みを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・アベリスツイス連携プログラム参加者数： 0人（H26） ⇒ 50人（H31）

④多様な町政参画機会の提供 【行政主導】

町の各種審議会や委員会等への公募委員枠の拡大、女性委員の登用率を向上、また障害をお持ちの方や外国人、社会的少数者の視点を町政に入れるなど多様な町政参加の機会を創出します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・審議会等への女性の登用率： 22.8%（H26） ⇒ 30.0%（H31）

[※] リベラルアーツ：人間性を豊かに育む幅広い知識や物事を深く専門的に追求する上で土台となる基礎的学問の総体。あるいはそれを身につけるための教育手法のこと。

[※] インターンシップ：学生が一定期間企業などで実際に働く体験ができる職業体験制度。

[※] アベリスツイス（Aberystwyth）：英国ウェールズの中西部カーディガン湾に面した町で、昭和59年から本町（当時、加悦町）と交流が始まった。

(ウ) 妊娠から出産・子育てまでを一体的に支援する環境づくり

～子育てするならこのまちで～

①結婚から妊娠・出産支援 【民間主導】【行政】

結婚希望者が結婚できるように近隣の自治体、民間と連携し、田舎暮らし体験カップリングパーティーなどの婚活事業を推進します。

また、子どもが欲しい夫婦の希望を叶え、安心して子どもを産み育てることができるよう、不妊治療費の軽減や産前産後の相談・指導体制などの充実を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・婚活事業件数： 0件（H26） ⇒ 10件（H31）
- ・新生児訪問実施率： 99%（H26） ⇒ 100%（H31）
- ・プレママとママの歯科教室参加率： 0%（H26） ⇒ 15%（H31）

②保育サービスの充実 【行政】【民間主導】【協働】

希望する人が子育てと仕事の調和（ワーク・ライフ・バランス）を実現できるよう保育サービスの充実を図り、また認定こども園・保育所（園）・幼稚園利用者の経済的負担を軽減します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・病児保育、病後児保育の実施場所の確保： 0箇所（H26） ⇒ 2箇所（H31）
- ・保育ママ、小規模保育の実施箇所数： 0箇所（H26） ⇒ 1箇所（H31）
- ・ファミリーサポートセンター設置数： 0箇所（H26） ⇒ 1箇所（H31）

③心豊かな親と共に地域で子育てを応援する体制づくり 【協働→住民主導】

子育ての孤立等を防ぐため、地域の身近なところで子育ての情報交換や相談ができる場「与謝野ネウボラ[※]（仮）」をつくります。また、親自身も子供と共に学び育つことができるよう、家庭教育の充実や地域教育力の向上へ向けた取り組みを進めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・「与謝野ネウボラ（仮）」の実施箇所： 0箇所（H26） ⇒ 1箇所（H31）

[※] ネウボラ：フィンランド語で「相談できる場所」のこと。三重県名張市などが採用・導入している。

基本目標2

創造的にものをつくる、しごとをつくる

～与謝野ブランド戦略による一気通貫した産業振興～

基本的方向

- 「与謝野ブランド戦略」を策定し一気通貫した産業振興を推進します。
- 「丹後ちりめん」を主力とした織物業と京の豆っこ米に代表される農業を基幹産業と位置づけ、既存の慣習や常識にとらわれない創造的なものづくりを推奨し、内発的な創業を促進します。
- 地域産業のイノベーション[※]と創業へのチャレンジを喚起する創造的な地域づくりや地域特性を活かした内発的なコト起こしを推進します。
- 都市部から企業（サテライトオフィス[※]等）を誘致し、町外からのしごと×移住の流れをつくります。

数値目標

新規創業件数	0件（H26） ⇒ 30件（H31）
新規就農者数	32人（H26） ⇒ 40人（H31）

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（ア）ブランド戦略による地域産業のイノベーション

① マネジメント体制の構築 【行政主導】

与謝野ブランド戦略による一気通貫したプロジェクト、産業政策を展開するため、行政、産業振興会議に加え、クリエイティブディレクター[※]を招聘し、マネジメント体制を構築します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・与謝野ブランド戦略プロジェクトの実施： 0件（H26） ⇒ 8件（H31）

② ものづくり産業の強化 【民間主導】

各産業分野における既存の概念にとらわれない創造的かつチャレンジ精神あふれる取り組みを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・地域特性を活かした新たな商品開発件数： 0件（H26） ⇒ 5件（H31）

※ イノベーション：新しく取り入れて実施したり、手を加えて改変すること。「革新する」「刷新する」という意味で使われることが多い。

※ サテライトオフィス：本来の勤務地から離れた場所にあるオフィス。本拠地に対し衛星（サテライト）のような存在であることから命名された。

※ クリエイティブディレクター：製作物の企画から制作、納品というすべての過程を一気通貫して指揮を執る総責任者

③自然循環農業の強化 【行政主導→協働】

有機質肥料「京の豆っこ」[※]の量産化に取り組むとともに民間による事業運営を目指します。また「京の豆っこ米[※]」の生産量を増やし、付加価値をつけた販売価格を設定し、地産「他」消[※]による外貨獲得、新規就農者の増加を目指します。

また、在外日系スーパー・百貨店等の海外の販売先を確立する等して、海外にも通じる地域ブランド力、価格競争力、総合力をつけることが出来るよう支援します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・京の豆っこの生産量： 274 t/年（H26） ⇒ 450 t/年（H31）
- ・京の豆っこ米の生産面積： 129ha（H26） ⇒ 270ha（H31）



④大規模農業・地域内6次産業[※]化・新規就農 【協働】

農地の集約等を進め、大規模農業や法人経営が出来る体制の環境を整備する

とともに、中山間地域の潜在的価値に光を当てることによって、ホップ[※]栽培事業（クラフトビール[※]醸造事業）等付加価値が高い農産物や特産品、加工品づくりを展開します。

また生産だけでなく、仕入れの連携や加工や販売までを町内で完結する仕組み（地域内6次産業化）を構築し、地産地消、そして、地産「他」消へつなげていきます。

さらに、ICT[※]農業の導入による新しい農業モデルの構築を図り、新規就農者の確保・育成を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・担い手の農地集積面積： 353ha（H26） ⇒ 400ha（H31）
- ・ICT農業を活用した農業者数： 試験利用者5人（H26） ⇒ 本利用者30人（H31）

⑤プロモーションの強化 【行政主導】【協働】

個別のホームページによる発信ではなく、「織りなす人（<http://yosano-weaver.jp>）」のようなデザイン性、創造性の高いサイトにより、町内の特産品はもとより、お店や観光スポット、人までも発信・販売できる仕組みを構築します。

また、SNS[※]等を活用しながら町内外へのプロモーションを強化します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・町公式Facebookのいいね！： 0件（H26） ⇒ 5,000件（H31）



※ 有機質肥料「京の豆っこ」：豆腐工場から出る「おから」を主原料とし、「米ぬか、魚のアラ」を加えた有機質肥料。

※ 京の豆っこ米：有機質肥料「京の豆っこ」を使って栽培された丹後コシヒカリ。

※ 地産「他」消：地域外で消費すること。

※ 6次産業：農業や水産業等の第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態。

※ ホップ：アサ科の植物で日本では「カラハナソウ」（学名：フルムス・ルプルス）と呼ばれる蔓（ツル）性の植物。

※ クラフトビール：造り手（ブルワー）達が、伝統的なスタイルを厳守または踏襲したビール、独自の解釈でスタイルを進化させたビール、ユニークな副原料や醸造法を使った独創的なビールのこと（引用：日本ビアジャーナリスト協会）

※ ICT：情報通信技術（Information and Communications Technology）

※ SNS：Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略。登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービス。

(イ) コト起こしへのチャレンジの喚起

①創造地域づくりの推進 【行政主導】【協働】

与謝野ブランド戦略の拠点エリアである「阿蘇ベイエリア」、海の京都の戦略拠点である「ちりめん街道」、大江山の麓のエリアとして魅力ある資源に囲まれた「道の駅エリア」「椿エリア」等において、五感に響く、五感を育む魅力ある空間を創出すると同時に、地域資源（ヒト・モノ・コト）の秘める創造性を引き出します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・エリア内における創業件数： 0件（H26） ⇒ 10件（H31）



②創業等支援の充実 【行政主導】【協働】

町、商工会、地元金融機関等が連携し、「オールよさの」で創業を支援するワンストップ相談窓口体制を充実します。

また、創業・事業拡大・事業展開に係る創業等支援メニューの拡充を図るとともに、事業に係る支援のみならず、異業種交流の場づくりや既存の中小零細企業に対してもビジネスプランのブラッシュアップ※等を支援する仕組みをつくります。

【重要業績評価指標（KPI）】

・創業相談受付件数： 0件（H26） ⇒ 50件（H31）

(ウ) 都市部からの企業サテライトオフィス×移住誘致

①逆指名型企業誘致 【協働】

町、商工会等の連携により税制、仕事環境、情報環境、住居環境、生活環境等のメリットをつくり、本町の地域特性、地域コンセプトに合致する企業を逆指名で移転誘致もしくはサテライトオフィス誘致を推進します。

また、サテライトオフィスについては、空き家や公共施設等既存の物件を活用し、コワーキングスペースとすることを推奨します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・空き家等を活用したサテライトオフィス誘致数： 0件（H26） ⇒ 6件（H31）

※ ブラッシュアップ：一定のレベルに達した状態からさらにみがきをかけること。

まちへの人の流れをつくる

～ヒトの魅力でヒトが集う与謝野IJU※（いじゅう）戦略～

基本的方向

- 移住希望者（とりわけ家族連れ）受け入れのための空き家等を把握するとともに、本町でチャレンジする移住希望者に対して移住から就職までを一気通貫で支援するための体制を構築します。
- 創造的な交流と与謝野・イン・レジデンス※による新たなIJUモデルを確立し推進します。
- 大学（生）や都市との連携により、若者の活力による新たな交流×定住人口の増加を図ります。

数値目標

定住人口減少の抑制 22,260人（H26） ⇒ 20,894人（H32）（社人研推計では20,552人）

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（ア）IJU支援の強化と創造的交流の推進

①空き家・空き地の把握 【協働】

移住専門の機関、建築関係団体、不動産業者、大学、町民、町等が連携し、移住希望者のための空き家・空き地の全数を把握するとともに、空き家・空き地バンクをつくり、特設サイト等データを活用した移住促進体制を構築します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・空き家バンクデータを活用した移住相談件数： 0件（H26） ⇒ 100件（H31）

②移住から仕事までの一気通貫の支援ネットワークの構築 【協働】

京都ジョブ・パーク等仕事斡旋の機関と連携し、移住だけでなく、仕事までを総合的に支援する体制を構築します。具体的には、町民の中から町への移住希望者に対して、「居」「職」「住」※の視点から助言や相談ができる「よさのむすび人（移住アドバイザー）」を認定（委嘱）し、移住希望者への地域情報の提供や不安の解消等側面的なサポートをはじめ、本町ならではの地域の魅力を紹介する等、移住から仕事まで一気通貫した相談支援ネットワークを構築します。長期的には 専門の機関（団体）が設立されることを目指します。

※ I J U:人口還流現象であるIターン（地方から都市へ、または都市から地方へ移住すること）、Jターン（地方から都市へ移住したあと、地方近くの中規模な都市へ移住すること）、Uターン（地方から都市へ移住したあと、再び地方へ移住すること）の総称。本戦略ではI J Uの順で記すことで「いじゅう」と読む。

※ イン・レジデンス：ある土地に一定期間滞在し活動を行うこと。

※ 「居」「職」「住」：京都への移住を支援する団体「京都移住計画」が提唱する移住希望者に必要な活動テーマ。「居」はコミュニティづくり、「職」は主に働き口、「住」は移住希望者の住む場所のこと。

さらに区長、隣組長、よさのむすび人等と連携し、移住後の住居、生活、仕事、学校等家族の相談を総合的に支援します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・よさのむすび人訪問相談件数： 0件（H26） ⇒ 100件（H31）

③与謝野・イン・レジデンス（短期型滞在）【仮称】の推進 【協働】

移住専門の機関、建築関係団体、不動産業者、デザイナー、大学（京都Xキャンブ[※]含む）、ハローワーク、商工会、地元宿泊施設、町民、町等が連携し、短期の仕事や移住体験、農業体験、自然を活かしたスポーツ、アート等の創作のために、空き家を活用し与謝野人（織りなす人）と交流しながら、短期間滞在できるお試し居住・お試し仕事を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・お試し居住・お試し仕事プロジェクト参加者数： 0人（H26） ⇒ 20人（H31）

（イ）大学、都市等との連携・交流

①大学（大学生）との連携事業 【行政主導→協働】

京都府北部唯一の大学である福知山公立大学や京都市内の大学等の高等教育機関と連携（京都Xキャンブ含む）し、教育（学生の調査研究やフィールドワーク[※]の受け入れ）・研究（地域課題の解決）・社会貢献（公開講座等）によって本町に関わり、関心を持つ人を増やします。

加えて、農業もしくは糸偏産業、社会学等の学部の大学、大学院のサテライト研究室等を招聘し、地域資源の開発や研究を産官学で取り組む体制を構築します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・大学連携事業による受け入れ学生数： 0人（H26） ⇒ 100人（H31）



②「与謝野梁山泊[※]（仮称）」事業 【行政主導→協働】

遊休公共施設や空き家を宿泊可能なゼミハウス「与謝野梁山泊（仮称）」として利用できるようにし、参加大学生の本町までの移動、宿泊支援をする等、全国の大学生で地域活性化をしたい人が集まる聖地的な「場」づくりを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・ゼミハウス「与謝野梁山泊（仮称）」利用者数： 0人（H26） ⇒ 100人（H31）

③ふるさと奨学金 【行政】

福知山公立大学等の京都府北部の高等教育機関に通う学生の本町定住を促進するふるさと奨学金制度を創設します。

【重要業績評価指標（KPI）】

・ふるさと奨学金貸与者： 0人（H26） ⇒ 10人（H31）

[※]京都Xキャンブ：様々な大学の学生たちが過疎高齢化地域に住み込んで活性化を図る活動で、本町のほか、南丹市美山町でも取り組まれている。

[※]フィールドワーク：屋外等、現地で調査対象を直接観察したり、人びとと対話したりインタビューをしたりする社会調査活動。

[※]梁山泊：中国山東省の西部、梁山の麓にあった沼沢で「水滸伝」という中国の有名な物語に登場する英雄たちの巣窟。そこから転じて、豪傑、野心家、有能な人が集まる場をいう。

基本目標4

地域と地域が連携し持続可能なまちをつくる

～与謝野を磨く、丹後を磨く～

※「丹後」は、京都府北部の5市2町が中心ではあるが、兵庫県北部も含めたゆるやかな北近畿地域を指す言葉として用いる。

基本的方向

- それぞれの地域の住民が主体となって地域を磨き、住民が輝く地域をつくります。
- 京都府北部5市2町による海の京都観光圏の取り組みを活かしつつ、本町の強みを活かしたオリジナルな政策・施策・事業の展開と民間が自走するまちづくり観光を推進します。
- 与謝野町だけではなく、自治体連携、広域連携の視点により、また民間視点も重視した取り組みにより、丹後地域の創生に取り組みます。

数値目標

地域ビジョン（仮称）に基づくプロジェクト実施数	0件（H26） ⇒ 16件（H31）
5市2町連携事業件数	2件（H26） ⇒ 4件（H31）

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（ア）地域住民による地域づくりの推進

①地域ビジョン（仮称）の推進 【協働】【住民主導】

町内の全ての地区で人口減少と少子高齢化が進むなかで、生活サービス機能、地域活動等の維持確保や地域の魅力向上を図るための地域ビジョン（仮称）を住民主体で検討・策定し、具体化の取り組みを推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・地域ビジョン（仮称）策定地区数： 0地区 ⇒ 8地区（H31）

②まちづくり観光の推進 【協働】【民間主導】

海の京都エリアにおける5市2町の連携をさらに深めるとともに、本町の資源をあらゆる視点から見つめ直し、地域内外から選好される地域を目指します。また、エリアにおける資源の魅力を最大限活用した滞在交流の仕組みを構築し、滞在時間の延長と併せて、再来訪へのリピーター率の向上と観光消費額の増加による地域活性化を推進します。

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・観光入込客数： 677千人/年（H26） ⇒ 720千人/年（H31）
- ・観光消費額： 6.1億円/年（H26） ⇒ 10.5億円/年（H31）

与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略

発 行 / 与謝野町

発行年月日 / 平成27年（2015年）12月

編 集 / 企画財政課

〒629-2292 京都府与謝郡与謝野町字岩滝1798番地1

TEL 0772-46-3084（直通）

FAX 0772-46-4630

E-Mail kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp